

# 染 香

ぜんこう

福 泉 寺 寺 報  
令和8年8月  
第 145 号  
毎月 1 日発行

## しあわせのありが

先日、ご法事での会食にて、向かいに座られた方が話しかけてくれました。  
「先日、NHKを観ていまして、チコちゃんに叱られました」

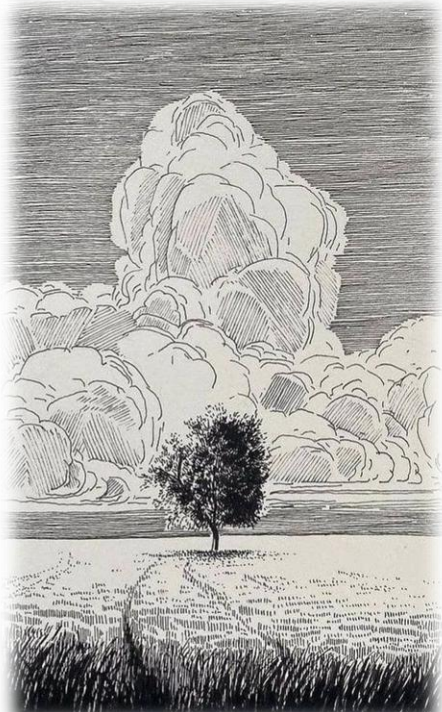
日常の「あたりまえ」の裏にある知識を紹介する番組に登場する、あのチコちゃんです。  
「なにで叱られたのですか？」  
と尋ねますと、

「『幸』の漢字の成り立ちを知りませんでした」とのこと。続けて

「手かせ（手の自由を奪う刑罰の道具）をかたどったものらしいんです」

私はかえって混乱しました。しかし  
「刑罰の道具はほかにもあります。手かせは手の自由だけを奪うもの。だから『このくらいで済んでよかった』というのが『幸』の意味だそうです。」

という説明を聞いて、妙に納得しました。



## 足し算から引き算へ

いかにも後ろ向きのような意味に聞こえますが、これは人生の本質についているように思えます。

私たちの人生は、成長から始まりました。立ちあがる、言葉を習得する、勉強や運動で賢さと丈夫さを身につける。やがて仕事に就いて経済的にも自立していく。これは、ずっと「足し算」です。

足し算こそが幸せだと思って生きているうちに、やがて「引き算」が静かに始まります。老いること、病に倒れること、別れること…

「身体が重くなってきた。けれど、このくらいで済んでよかった」「思わぬ病気を告げられた。でも大切なことに気がついた」…そんなふうに受け止められたら、どれだけ楽でしょうか。

先日、八十過ぎの奥様が「お浄土はあるのですか？」とお尋ねなさいまして「私にはわからないのですが、先に往かれた親しい人たちが待っていると思うと、少し寂しさが紛れる気がします」とお答えすると、その方は目を赤くされておられました。

人生の最後の“引き算”のとき、私たちはどんな「幸」を感じるでしょうか…。

（住職）

## 真宗用語の基礎知識



### 【歓喜会（かんぎえ）】

お盆の法要を浄土真宗ではこのように呼びます。仏教全般では「盂蘭盆会（うらぼんえ）」と呼び、他宗派では「施餓鬼会（せがきえ）」という場合もあります。

盂蘭盆会は、お釈迦さまのお弟子・目蓮さんのお母様が「餓鬼道（むさぼりの世界）」に住んでいるところを浄土へ導くお経がルーツになっています行事ですが、亡き家族のことは阿弥陀さまにおまかせして、お盆を「教えにご縁を結ぶ喜びの行事」にする浄土真宗らしい呼称です。



ちよっと あたまの  
こりほぐし  
エサの時間です。ゾウ・カバ・サイ、  
しかもライオンも…。  
いくついるでしょうか？こたえは裏面です



## おてらより

### ★秋のお彼岸・永代経法要

9月20日（日）午後12時～4時半

●お勤め…仏説阿彌陀經

●ご法話…三木 秀海 師

倉敷市菰池

真宗興正派 住職

### ●納骨堂勤行

本堂にお舍利さんを納めておられる  
ご家族皆さまへ、ぜひお参りください



### ★報恩講の予定のご案内

●日程…12月5日（土）おてらうんじ

12月6日（日）報恩講法要

12月7日（月）真宗に学ぶ講座

●当番…倉光・坊寺・江良地域の皆さま

★報恩講参りは10月1日～1月31日

おってご連絡差し上げます。

【ある緩和ケア医師の話】

霊的苦痛、鎮静について

「私は何も出来なくなっていました。私なんか生きている価値がない。死にたい。早く楽にして下さい。」

これは、<sup>※</sup>霊的苦痛、鎮静に関わることであり、何人かの人からこういう言葉を聞きました。

目の前の患者さんの口からこのような言葉を聞くと、そうしたい ”気持ち“ になることがあります。

特に長い入院生活を送り、時々喫茶店にコーヒーを飲みに行ったり、一緒にタバコを吹かしたり、車で外出したりした人から言われると、「薬を使って早く楽にしてあげたい」と同時に、「いつまでも生きていて欲しい」という気持ちになります。自分の中にある気持ちには両方あるようです。しかし、訴えられる患者さんを目の前にした時は、前者の気持ちの方が勝ります。後者の気持ちは、その場から離れてしばらく時間が経過して、一人になった時に、自分の心の中には後者の気持ちもありそうだと気が付く程度です。

この時に考えておきたいことは、患者さんの依頼だから、あるいは家族の同意があるからという理由で、どのような医療行為をしても差し支えないのかどうかという

ことです。人の命はどのようなものか？ということ、人の命に対してどのような医療行為をしてもかまわないのか、ということについて考えておかなくてもよいのか？ということです。私は考えておくべきことだと考えています。医療行為は本来、人の苦しみを軽くするものですが、苦しみをなくすという理由があれば何をしてよいということではないでしょう。

「早く楽にして欲しい」という言葉の意味を考えると、「自殺したい」ということになります。そう考えると、医療従事者が患者さんの依頼に応えることは自殺を助けることになりそうです。

このような言葉が、動けなくなった人の口から出てくる理由として、私には次のようなことが思い浮かびます。

動けなくなって、食べられなくなった癌末期患者さんは、周囲の人の気持ちが鋭くわかるようになるような気がしています。

人は皆、生きるための力として必要な生産性重視の視点を持って生活しています。それに対して癌末期患者さんは、食べられなくなったら動けなくなってしまうと何も出来なくなった、生産性の低下した自分、周囲の人にどのように認められているのか、ということを考えるだろうと想像します。

「自分はいる意味がないと思われるのではないか？」と考えてしまうのではない

いでしょうか。

言葉を換えると、「周囲の人の雰囲気、動けなくなった私を認めてくれない。」と感じられる（本人が自覚しておられるかどうかは、わかりません）から、癌末期患者さんは早く死にたいと思われるのではないでしょう。

このように考えると、<sup>※</sup>実存的苦痛（スピリチュアルペイン）緩和手段を考えると、癌末期患者さんに「そんなことはないよ。あなたは生きているだけで価値があるんです。」と、動けなくなった人を慰めるような言葉をかけることで解決するようなものはなく、健康な人が自分自身に問いかけるという作業を、癌末期患者さんの目の前で言うことが必要になるのではないかと思います。

このような患者さんを目の前にして「そんなことはないですよ。あなたは生きているだけで価値があるんです。」と、確信を持って言える人はごく少数ではないでしょうか。私にはとても言えません。

健康な人が、自身に問いかける作業の内容は、「私は生産性重視の価値観を持って生きているのではないか？ 私が持っているその価値観のために目の前の癌末期患者さんを苦しめているのではないか？」という内容になるのではないでしょう。

実存的苦痛を持って苦しんでおられるよ

うに見える患者さんに対して、その苦しみを緩和出来るための手段があるとすれば、それは他人に何かをすることではなく、その人の目の前で自分自身に問いかけることではないでしょうか。その雰囲気が目の前に人に伝わる可能性があるならば、それが実存的苦痛緩和につながる可能性があると私は思います。

ある医師から「人間は一步一步前に進むように出来ている。」という話を聞きました。私自身を振り返ると、まさに「他人に何かできる、他人を救える」と思い、このようなことを考えてしまいます。

その理由は、周囲に苦しんでいる人がいれば、その人を救いたい、と考えているからでしょう。救えないのに救いたいと考えているのだらうと思います。それは、私

平野博『ターミナルケア 私の覚え書き』北越出版

※霊的苦痛：WHOの用語。

※実存的苦痛：この医師によれば「生きていることを許されないと感じたときの苦しさ」という意味で使っている。

